

第1学年音楽科学習指導案

国母小

1. 題材名 ようすをおんがくで

2. 題材の目標

- 旋律の変化や反復を捉え、楽曲のよさや面白さに気付く。
- 歌詞や楽曲の気分を生かして表現を工夫する。
- 旋律や音の反復に気付き、様子を思い浮かべて聴いたり、演奏を工夫したりする。

3. 学習指導要領の内容との関連

(1) 指導事項（歌唱表現の活動）

	ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり、暗唱したりすること。
○	イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
	ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
	エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

(2) 本題材で指導する〔共通事項〕の主な内容

速度・強弱・音色・反復・変化

4. 題材設定の理由

(1) 題材の構成

この題材は第1・2学年の目標(1)(2)(3)ならびにA表現(1)歌唱イ「歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。」を実現するための題材である。

本題材では楽曲の気分を感じ取ったり情景を想像したりしながら、それを表している「音楽を形づくっている要素」に気付かせるようにする。そのため児童ができるだけ身近なものとしてとらえやすい楽曲を扱う。自然に身体表現しながらリズム遊びの楽曲の世界に浸らせ、それを表している音楽を形づくっている要素に気付き、音楽的な力が身に付くことができるようにしていきたい。低学年の児童は想像したり、登場する動物やおもちゃになりきって歌ったりすることが大変好きである。身体表現をしながら、「子ネコが楽しそうにおどっている」様子を感じ取る活動、そして「すずめは小さくてとんでいくから、小さい音ではやく演奏したい」「ぞうは体が大きくてゆっくり歩くので、大きい音でゆっくり演奏したい」など動物の様子を想像して自分の思いをもって歌って表現できるようにしていきたい。また楽曲の歌詞の動物を想像し、その動物にあった「強弱」や「速度」「音色」を工夫させていく活動も取り入れていく。

(2) 本題材についての児童の実態

本学級は音楽が好きな子どもが多く、音楽の授業をとっても楽しみにしている。これまで歌遊びを中心に拍の流れを感じ取って体を動かしながら聴いたり、歌ったりしてきた。またリズム遊びや2拍子の曲に合わせて手拍子・身体表現をしながらリズムについて学んできた。2学期に入り、階名の学習も進めている。4月に入学してから体を動かしながら音楽にのって楽しむことを意識させ授業に取り組んできた。『かもつれっしゃ』『ひらいたひらいた』『しろくまのジェンカ』などの音楽にあわせて体を動かすことは大変喜んで行う様子がみられた。また体いっばいつかって元気よく歌う姿が見られる。しかし、範唱やまわりの子どもの声を聴かずにむやみに元気よく歌ったり、自分勝手なスピードで歌ったり、曲に合わせずに体を動かしたりする児童もいる。そこで楽曲の気分を感じ取り、情景を想像して、その曲にあった表現を工夫する楽しさを味わうことを大切にしたい。

5. 教材名及び教材選択の理由

○歌唱教材

『すずめがちゅん』 佐甲慎 作詞・作曲

ハ長調 4/4 拍子。ハ長調音階の導入のためにつくられた曲。五音からなり右手の五指で鍵盤楽器を操作しながら階名に親しませることができる。また歌詞が簡単で動物の鳴き声が含まれているため、児童が動物の様子を想像しやすい。

『おもちゃのチャチャッチャ』 野坂昭如 作詞／越部信義 作曲

ハ長調 4/4 拍子。前奏・A・Bの2部形式。チャチャッチャのリズムに特徴がある。8部休符や半音階的な進行が効果的に用いられている。

○鑑賞教材

『おどるこねこ』 ルロイ・アンダソン 作曲

A・B・Aの複合三部形式。Aの部分のワルツがゆったりとしているのに対して、Bの部分は、テンポが少し速まり軽快なワルツになっている。そしてAが再現された後に続くCodaは犬の声が飛び出して急速なプレストに変わり、あわてて逃げ出す様子がユーモラスに描かれている。猫の鳴き声を模倣するバイオリンのグリッサンドが楽曲全体の気分を特徴づけている。

『おもちゃのへいたい』 レオン・イエッセル作曲

A・B・Aの複合三部形式でつくられた行進曲。冒頭ファンファーレから始まり、おもちゃの兵隊が整列し、行進が開始される様子が想像される。Aはおもちゃの兵隊の行進、Bはいろいろなおもちゃが飛び出てきたようである。その後序奏部が始まりAの再現そして、急に何かにせかされたようなCodaになだれこんで終わる。楽しく行進していたおもちゃが、おもちゃ箱に吸い込まれていくような夢の目覚めを象徴する終わり方になっている。

6. 評価規準

ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の 創意工夫	ウ 音楽表現の 技能	エ 鑑賞の能力
<p>①動物の様子を想像しながら、楽曲の気分を感じ取って聴く学習に、進んで取り組もうとしている。</p> <p>②範唱を聴き、歌詞で歌ったり階名視唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③おもちゃの様子を想像して、曲に合わせて楽しく歌ったり身体表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>①繰り返し出てくる旋律やリズムを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら表現を工夫し、どのように表すかについて自分の考えや願いをもっている。</p> <p>②歌詞に合った音を選んで、速さや強さなどを工夫し、どのように表すかについて自分の考えや願いをもっている。</p>	<p>①音色や音の長さに気を付けて、演奏している。</p>	<p>①速度の違いや旋律の変化と反復を聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取って身体表現しながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いている。</p> <p>②繰り返し出てくる旋律や楽器の音色に気づき、そのよさや面白さを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いている。</p> <p>③楽曲の気分や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを身体表現や言葉で表すなどして、楽しさに気付いて聴いている。</p>

7. 指導計画

次	時	○学習のねらい及び内容	◇学習の活動及び 教師の働きかけ	評価規準 (評価方法)
1	1	<p>○「おどるこねこ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲を聴きながら、どんな動物が出てくるかを想像する。 ・楽曲に合わせて、ねこになってみる。 ・猫の鳴き声の部分を表現させる。 ・3拍子のゆったりとした動きや速い動きを感じる。 	<p>◇A・B・Aの部分のみを聴かせ、Codaの部分は後のお楽しみにつけておく。</p> <p>◇猫になって音楽に合わせて体を動かすようにかかわる。</p>	<p>・ア-①</p> <p>【鑑賞しているときの表情や身体表現・発言】</p>
	2	<p>○「おどるこねこ」に合わせて身体表現をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声の部分を身体表現する。 ・友だちの動きをみながら友だちの動 	<p>◇「にゃーお」の部分を大きく表現させる。</p> <p>◇Bの部分を取り上げて、Aの部分との違い</p>	<p>・エ-①</p> <p>【AとBの違いを生かした身体表現・発</p>

		<p>きのよさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A と B の速度の違いを感じて B の部分を身体表現をする。 ・ ABA に合わせて楽しくこねこになって踊る。 ・ 繰り返し出てくる旋律に気付きながら身体表現する。 	<p>を感じ取らせながら、身体表現させていく。</p> <p>◇B の後にまた A が現れることに気付くようにさせる。</p>	<p>言】</p>
	3	<p>○「おどるこねこ」の Coda の部分を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲全体を聴く。 ・ Coda の面白さを感じ、犬が出てきたことを想像しながら聴く。 ・ 曲の終わりはどうなったのか発表し合う。 ・ 曲に合わせて、こねこや犬になって楽しく踊る。 	<p>◇最後のお楽しみ of Coda を聴かせて子どもたちの反応をみる。</p> <p>◇想像したことを発表させる。</p> <p>◇最後のところをおもいきり身体表現させる。</p>	<p>・ エー③</p> <p>【A の繰り返しや Coda を生かした身体表現・発言】</p>
2	4	<p>○「すずめがちゅん」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱の様子を聴いて楽曲の感じをつかむ。 ・ 鳴き声のところを身体表現しながら歌う。 ・ ドレミ（階名）で歌う。 ・ 替え歌をつくり、歌詞にあった鳴き声を考えて楽しむ。 	<p>◇鳴き声にあった歌い方で歌うように工夫させる。</p> <p>◇楽器演奏につなげていけるように階名視唱を十分に暗唱させる。</p>	<p>・ アー②</p> <p>【歌っている様子】</p>
	5	<p>○「すずめがちゅん」を楽器で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指使いやタンギングに気をつけて、練習する。 ・ 1 番と 2 番の鳴き声の違いを工夫する。 ・ 歌に合わせて演奏する。 ・ グループごとに、替え歌の題名と歌詞を考える。 	<p>◇息の強さやタンギングを確認する。</p> <p>◇鳴き声の演奏の仕方を工夫させる。</p>	<p>・ ウー①</p> <p>【音の出し方・演奏の仕方】</p>

	6 (本時) ・7	<p>○「すずめがちゅん」の替え歌をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番(すずめ)の速さや強さを工夫する。 ・グループで考えた替え歌を工夫して歌う。 ・鳴き声のところを楽器を加えて演奏する。 	<p>◇動物の様子を表せるように速さや強さを変えて工夫させる。</p> <p>◇動物によって出てくる違いをはっきりさせて演奏に工夫させていく。</p> <p>◇動物の鳴き声や様子に合う楽器を選び、合わせて演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イー② <p>【つくった替え歌やその歌い方・ワークシート・発表の様子】</p>
3	8	<p>○「おもちゃのチャチャチャ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて楽曲の感じをつかむ。 ・「チャチャチャ」のリズムの部分に手拍子を入れて歌う。 ・最後の「チャチャチャ」の繰り返し出てくるところを楽しく身体表現して歌う。 ・おもちゃの気分になって、楽しみながら歌う。 	<p>◇2番の歌詞が他のところとリズムが違うので注意して歌わせる。</p> <p>◇最後の「チャチャチャ」の身体表現を工夫させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アー③ <p>【身体表現して歌っている様子】</p>
	9	<p>○「おもちゃのへいたい」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲を聴いて浮かんできた様子を自由に発表する。 ・兵隊さんが楽器を吹いて行進している様子を思い浮かべながら、繰り返し出てくる旋律を感じながら身体表現する。 	<p>◇題名を伝えてからは兵隊さんが何をしているかを想像させる。</p> <p>◇行進してみることで楽曲に浸らせていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エー② <p>【鑑賞時の表情・身体表現】</p>
	10	<p>○「おもちゃのへいたい」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に身体表現させながら、お互いの動きを見合ってよさを交流する。 ・兵隊さんたちがどんな楽器を吹いているかを想像しながら聴く。 ・おもちゃの兵隊さんになってみんなで行進する。 	<p>◇身体表現をしている中で、楽器を吹くなど子どもの動きのよさを広めていく。</p> <p>◇楽器を紹介し、その楽器の音が聞こえたら手をあげさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イー① <p>【身体表現して歌っている様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エー③ <p>【鑑賞時の表情・身体表現・発言】</p>

8. 本時の展開

(1) 日時 平成25年11月5日(火)

(2) 場所 1年教室

(3) 本時のねらい

自分たちの替え歌を工夫しよう

時	◎学習内容	・学習活動	○教師の働きかけ・準備など ◇評価★言語活動
第6時	<p>◎手遊び歌・「すずめがちゅん」を歌う</p> <p>◎動物になって歌い方を工夫する。</p> <p>◎グループで考えた替え歌を工夫する。</p> <p>◎学級全体で考える。</p> <p>◎次回の予告をする。</p>	<p>・手遊び・歌を歌い、音楽をする心の準備をする。</p> <p>・1番(すずめ)の動物のイメージに合わせて速さ、強さをどう変えたらいいのかみんなで考える。</p> <p>・動物の様子を思い浮かべて速さと強さをグループで話し合い選択させる。(ワークシートに記入する。)</p> <p>・グループごとに考えた工夫を学級全体で歌って考える。</p>	<p>○「すずめがちゅん」は教師の伴奏で歌う。</p> <p>○速さや強さを変えて演奏して動物の様子を表せるように工夫して楽しむ。 ★こういう動物だから「こんなふうに歌いたい」と言葉で発表させる。</p> <p>○動物によって出てくる違いをはっきりさせて演奏に工夫させていく。 ・グループごとに拡大楽譜を準備しておく。 ★思いや意図をもって歌詞にあった工夫をしているかグループで相談させる。 ◇歌詞に合った速さや強さなどを工夫し、どのように表すかについて自分の考えや願いをもっている。 (音楽表現の工夫②)</p> <p>○なぜその速度や強弱にしたのかをグループに聴きながら、学級全体で考えて歌ってみる。 ○グループの工夫のよい所や課題を、みんなまで歌って考える。</p> <p>○次回は、動物にあった楽器を選んで歌と合わせて演奏することを予告する。</p>

(4) 学習評価の進め方

◇歌詞に合った速さや強さなどを工夫し、どのように表すかについて自分の考えや願いをもっている。

(音楽表現の工夫②)

○「おおむね満足できる」状況 (B 評価) と判断できる児童

・つくった替え歌にあった強弱や速度を工夫している。

○「十分に満足できる」状況 (A 評価) と判断できる児童 (B 評価にプラスして)

・強弱や速度だけでなく、歌い方も動物に合わせて表現している。

○「特別な支援が必要」な状況 (B 評価) と考えられる児童への対応

・動物の特徴を考えさせたり、動物になりきって身体表現させたりしながら、強弱と速度を工夫させる。